(参考書)

**『獲得金メダル！国際数学オリンピック　メダリストが教える解き方と技』**

　　　　　　　　　　　　　　小林一章監修　朝倉書店

　コメント：本選向け。各分野それぞれ最低限必要な知識、広く使える手法などが書かれている。問題演習をする前にとりあえず読んでおくと良い。春合宿に行くような人々はみんな持っているし、差をつけられないためにという意味合いでも必須。

**『数学オリンピックへの道１：組合せ論の精選102問』  
『数学オリンピックへの道２：三角法の精選103問』  
『数学オリンピックへの道３：数論の精選104問』**

　　　　　　　　　　　　　　小林一章、鈴木晋一訳　朝倉書店

　コメント：シリーズ物。統一的な方法論や有用な手法がまとめられているわけではないので問題演習用。三角法は必要ない感。。。

**『三角形と円の幾何学―数学オリンピック幾何問題完全攻略』**

　　　　　　　　　　　　　　安藤哲哉著　海鳴社

　コメント：五心、共円、方べき、反転、射影、調和点列など初等幾何で必要な知識がほとんどすべてまとまっている。数オリで使いそうな幾何の定理はだいたい載っている。

**『美しい不等式の世界: 数学オリンピックの問題を題材として』**

　　　　　　　　　　　　　　佐藤淳郎訳　朝倉書店

　コメント：有名不等式からテクニックまでいろいろ書かれている。類題もたくさんのっているので各種不等式の使い方が身につきやすい。文字に対称性がある不等式であればほとんどこの本で紹介されている知識だけで片付きそう。

もっと基本的なところだと東京出版の『マスター・オブ・整数』あたりでしょうか。また幾何を座標や複素平面、ベクトルでゴリ押すこともあったりするので結局受験テクニックも身についていたほうが解法の幅は広がります。